

令和5年度 第1回沼津市立図書館協議会 議事録

日時 令和5年8月24日(木) 午後2時00分 から 午後4時15分

場所 沼津市立図書館4階 第1・2講座室

出席者 委員 7名

村上会長、渡邊(美)副会長、糸川委員、露木委員、佐野委員、小島委員、
宮代委員

(欠席：渡辺(洋)委員、工藤委員)

事務局 6名

尾和館長、中澤事務長、中川事務長補佐、榊図書係長、山下管理・事業係長、
遠藤主任

傍聴者 なし

1 開会

配付資料に基づき、図書館協議会の設置根拠、役割等について説明

2 教育長挨拶

皆さんこんにちは。沼津市教育長の奥村と申します。本日は急に雨が降ったりして、暑さも今までは若干やわらいだ感じですが、お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

こまめに水分を取りながら会を進めて参りたいと思います。

皆様方におかれましては昨年の8月から2年間の任期で協議会の委員をお願いしているところでございます。ちょうど折り返しとなりますが、残りの任期につきましても引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

金岡小学校の糸川先生につきましては、本年4月から沼津市校長会におきまして、沼津市教育振興会図書館部長に就任されましたので、新たに委員をお願いしたところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

沼津市は今年市制100周年を迎えました。4月1日には記念式典がプラサヴェルデで行われ、大岡小学校に3年ほど通学をしておりましたフジテレビアナウンサーの軽部真一さんに司会をお願いし、沼津出身のスポーツ庁長官である室伏広治さんに記念講演をしていただきました。お二人は「首都圏から1時間というこの沼津市は第二の故郷、美しい自然に囲まれ、水やお茶、魚介類や果物などのおいしい食べ物をはじめとする地域資源や未来都市としてのポテンシャルがある。」と沼津を絶賛されました。

また、今回100周年のお祝い給食が振舞われ、あしたか牛カレー、そして沼津茶を練りこんだ100周年のロゴマークのついたコロッケなど、子どもたちに大好評でした。

沼津御用邸では藤井聡太棋聖と佐々木大地7段による棋聖戦、文化センターではハンカチ王子こと斎藤佑樹さんを迎えてトークショーを行いました。

それから3月に落成しました新総合体育館では大相撲の夏巡業を開催し、先日、NHKのど自慢が行われるなど大変な盛り上がりを見せており、年末まで記念事業やイベントが続いて参ります。

一方、沼津市立図書館におきましても、市制70周年である平成5年7月1日に開館いたしましたので、今年の7月1日には30周年という節目の年を迎えました。

この記念すべき年を迎えるにあたって、図書館では、まず4月13日から8月3日まで、第1弾の企画展として「本でたどる沼津の100年」を、4階展示ホールで開催いたしました。

大正時代から令和に至る沼津市の100年の歩みを、時代を代表する本や写真で迎るとともに、市立図書館の30年の歴史を紹介いたしました。

中でも昭和の時代に、各お店で使われていましたマッチのラベルを、当時のまちの地図に落とし込んだ展示は大好評で、新聞報道でも取り上げていただきました。

また、記念イベント第2弾としまして、先月から本館2階で「沼津の学校と教科書のあゆみ」を開催しております。

現在ある23の公立小学校だけでなく、統廃合によって廃校となりました9校も取り上げ、学校の歴史や校歌、校章や学校生活や地域の文化などを紹介しております。

先人達への敬意とともに、市民の皆様には改めて沼津への愛着を深めていただくことができると思います。

その他にも、各階ごと「特集コーナー」を設け、工夫を凝らした展示をしておりますので、この会議の後、お時間のある方は是非、ご覧いただければと思います。

一方、図書館の利用状況といたしましては、事務局から説明があるかと思いますが、新型コロナウイルス感染症の影響もございまして、入館者は減少しました。しかしながら2年前に導入いたしました「ぬまづ電子図書館」の貸出点数は、順調に増えてきており、中でも子どもたちの利用が非常に伸びております。

この電子図書館をはじめ、地区センター図書室の利用方法を改善するなど、子どもから大人まで図書館から遠い地区にお住まいの方々に対しても、いつでもどこでも本に触れることができる環境づくりを、より一層進めていきたいと考えております。

市民のライフスタイルや価値観が時代と共に多様化しております。図書館を取り巻く環境も日々変化しており、その状況に対応した図書館の魅力を高める運営の見直しが必要と考えております。

より質の高い市民サービスを提供して、あらゆる世代が利用したくなるような生涯学習の拠点施設として、魅力的な図書館づくりを進めていくことが使命であると認識しております。

市制100周年、そして沼津市立図書館開館30周年という節目の年が、市民に、そして子どもたちにとって改めて沼津の魅力や本の魅力に気づき、沼津への愛着を深めるとともに本に親しむ機会が広がることを願っております。

沼津の次の100年を担う主人公は子どもたちです。我々が子どもたちにしっかりとバトンをつないでいかなければなりません。

図書館では小中学生が自分のおすすめの本をお勧めするビブリオバトル大会を毎年企画して開催しております。これは限られた時間の中で自分がいちおしの本の魅力を伝え、聞いている人たちがその本を読んでみたくなるかどうかを競う大会です。

パフォーマンスを駆使しながらコミュニケーション能力や想像力を存分に発揮する姿が見られ、回を重ねることにレベルが高くなっているなど私自身感じております。

人前で自分の考えを相手にわかりやすく伝える力は未来に向けても特に求められている力であって、その元となる読解力、思考力、表現力、感動力を磨くには読書は欠かせないと思っております。

昨年の高校生ビブリオ大会静岡県大会では、沼津市立沼津高等学校の2人がチャンプ本、準チャンプ本、いわゆる県大会の優勝、準優勝に輝きました。これは快挙です。

また、8月22日に行われた中学生の私の主張大会静岡県大会がありました。県内各地から選出されたのは13人です。20の市町がある東部地区からは5人が選出されました。その5人のうちの2人が沼津市内の生徒でありました。東部地区代表に2人が選ばれること自体、大変名誉なことですが、なんと長井崎小中学一貫学校の大城柚稀さんが最優秀賞、片浜中学校の杉山奈生さんが優秀賞に選ばれるというこの快挙に私も非常に興奮いたしました。市内の中学生、高校生の様々な場面での活躍をととても頼もしく思っているところございます。本市では「誇り高い沼津を創造する貴き志を持つ人づくり」を目指した教育を推進し、夢の実現に向けて挑戦し続け、他者を尊重し、社会のために尽くすことができる人づくりに努めております。是非ともご理解ご支援賜りますようお願い申し上げます。

報告あるいは宣伝も含め大変長くなりましたが、委員の皆様方におかれましては、この協議会を通じて、忌憚のないご意見やご助言をいただければ、と考えております。それでは、今期も活発なご議論をお願い申し上げまして教育長挨拶とさせていただきます。

本日は皆さんどうぞよろしく願いいたします。

3 会長挨拶

皆さんこんにちは。今年の夏はご承知の通りいつもの夏とはだいぶ違うような感じで、梅雨の時期がいつもよりずれこみましたし、その後は雨が全然降らない非常に暑い日が続いて、お盆休みは台風や突然雨が降り出すといった、いつもと変わった天候が続いています。

今日も先ほど突然雨が降ったりしましたので、こんな天気が図書館の来客にどう影響するのかと考えながら車を運転してきましたら、地下の駐車場に入った時に車が少し少ないのかなと思いました。今日は雨が不安定な状況の中、お集まりいただきありがとうございます。教育長さんにはお忙しい中ご挨拶いただきましてありがとうございます。

それでは、先ほどお話があったように図書館の創立30周年、市制100周年という記念すべき年ではありますが、今日は昨年度の事業報告と記念すべき今年度の事業計画を伺わせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

4 委員自己紹介（糸川委員新任のため）

5 議事（進行は村上会長）

（1）令和4年度利用状況及び自主事業について

事務局から配付資料に基づき説明

委員： 沼津の図書館が非常に活発な運用をしているなど安心しております。2～3質問させていただきます。沼津の図書館と他の図書館との比較というのはございますでしょうか。

事務局： 静岡県立中央図書館の令和4年度発行の「令和4年度静岡県の図書館」から引用し、静岡県東部の図書館の一人当たりの貸出冊数を比較いたしますと、1位が富士市で7.6冊、2位が三島市で7.1冊、3位が富士宮市で6.3冊、4位が裾野市で4.7冊、5位が御殿場市で4.6冊、6位が伊豆市で4.4冊、7位が沼津市で4.3冊、8位が伊豆の国市で3.3冊、9位が熱海市で3.1冊、10位が伊東市で2.7冊、11位が下田市で2.5冊、11市の平均が4.6冊という状況で、沼津市は平均よりはやや少ない状況となっております。図書館の立地条件に左右されるのではないかと思います。例えば富士市は分館が3館あり、うち1館は富士市交流プラザと併設している状況です。富士宮市も分館が2館、三島市の本館は生涯学習センターと併設しているなど、より近くに分館がある、施設が文化センターや生涯学習センターなどを併設していて、図書館の利用者にプラスアルファの利用者で結果的に冊数が伸びているのではないかと推察します。

委員： 沼津市は静岡県の平均には行っていないということですね。ではそういう点も加味していただいて来年度以降の計画の中に盛り込んでいただきたいと思えます。

2点目の質問は、図書館の利用者は子どもだけではなく大人もいますが、大人向けのイベントは心がけてられているのかということと、沼津にはいろいろな産業がございます。沼津にある工業、商業、水産業、農業とか沼津の産業的なイベントがあってもいいのかなという気がいたしました。図書館のマスターではなく、市の方や商工会議所の問題でもありますが、図書館でも産業分野での取り組みを取り入れていただきたいと感じております。

事務局： 確にお子さん向けのイベントにかなり力を入れている状態ではありますが、隔年開催で行っている文芸講座や、毎年行っている読書週間は大人向け、読書が好きな方向けの内容で実施することが多い講座となっております。

産業の紹介等につきましては、市部局等と連携が取れるかどうかなどを確認しながら今後イベント等に反映させることができればと思います。

委員： 最初の質問に対してですが、図書館の市町村別の利用者の割合が、三島が2番目であるということが意外でした。自分は沼津も三島も利用しますが、図書館の中が三島の方が優れているとは感じません。立地条件も距離も同じような感じで、場所的には三島の方がわかりにくい場所ですが、一つ考えられるのは、三島は駐車場が2時間無料、沼津は30分で、それが大きいのではないかと。他には差がつく原因がないのかなと思えました。

委員： 7ページの団体貸出の件ですが、2点ございまして、1点目はこの団体、書いてある団体が一部ということでその理由が聞きたいということと、2点目は団体の登録に基準があるのかということです。市立病院に団体貸出があれば良いと思っております、団体

として登録ができるなら、待ち時間に本を借りられたらと思います。

事務局： 団体貸出は50～100冊単位での貸出となっており、職員が運搬しています。今まで市立病院から要望が特にございませんでしたのでやっておりませんでした。要望があれば貸出をすることは可能です。

委員： それは市営じゃなくてもできるということですか。

事務局： はい。実際に要望がございましたら。ただマンパワー的には上限に達してきておりますので、それがどのくらいの量なのかというところにもよります。

委員： 2ページの貸出利用者数で、地区センターだけ伸びていますが、特定の地区センターだけ伸びているのか全般的に伸びているのかわかりますでしょうか。

事務局： 詳細なデータを持ち合わせていないのですが、例えば原地区センターや門池地区センターなどは人が増えてきているというところで伸びてきているというところがあるかと思っています。

委員： 地区センターの図書館自体というよりは、地区センター自体が活性化しているということでしょうか。

事務局： どこでも借りてどこでも返せる、というこのサービスを始めたのが令和2年1月からで、やっとそれが浸透してきたと考えております。

例えば西浦にある本を本館へ運ぶとなったら、職員が取りに行き運んでおります。人力で行っているため限界がございますが、順調に貸出数が伸びております。大岡や原などは大きな道路に隣接しており、お住まいの方だけでなく通勤の方も利用していると思われるため、伸びてきていると考えております。

委員： 5ページの電子書籍の貸出点数ですが、3年度と4年度を比較した中で児童書の伸びが3倍近くになっているのはどうしてでしょうか。

事務局： 小学校5・6年生の希望者を対象に学校を通して図書カード作成を行ったということから顕著な伸びを示しているのではないかと思います。

委員： レファレンスサービスは具体的にどんな質問が多くてどんな対応をしているのか、傾向として何かあれば教えていただきたいです。

事務局： 「鎌倉殿の13人」など大河ドラマに関する質問はいただいております。また市制100周年ということで、市制100周年に関する質問やカラマズー市に関する質問などもいただいております。

委員： そうすると窓口にいる方も一般的な知識を備えてないといけないと思います。ご苦労様です。

委員： 今回は沼津市市制100周年ということで、そのイベントが多く行われているようですが、それが終わった後はどんなことを一つの目玉にしようと考えておられるでしょうか。

例えば沼津の発展の大きなきっかけとなった大正15年の大火、その後の沼津の発展に大きな影響がありまして、沼津市の駅前の幅広い通り、当時13間半と言っておりましたが、その道路は防火帯として構想されました。沼津大火から100年が昨年となります。沼津市制100周年の後のイベントについて伺いたいです。

事務局： 今は資料1の説明をさせていただいたところで、資料1は昨年度何をしたかというご説明をさせていただきました。資料2でアンケート、資料3で今年度の事業について説明させていただきますので、資料3の説明が終わった後にご説明させていただければと思います。

委員： 先ほど村上会長がおっしゃっていた三島の利用状況についてですが、三島の担当の方が生涯学習センターで用があったついでに本を借りていくとおっしゃっていました。地区センターが伸びている理由ですが、地区センターのイベントのついでに借りていける環境がある、通った時に子どもが手に取れる本があるからではないかと感じております。

図書館というのは本が好きな人がわざわざ行くというイメージが一般市民にとっては根強いのかなと思います。調べものがあるから、やらなきゃいけないことがあるから、借りなきゃいけない本があるから、図書館に行く。ただ本好き以外の人、普通の人にとっては何かのついでに本を借りれたらいいな、たまたま見た本が何となく良さそうだから、なんとなく綺麗だから借りていこうというのが一般的なのかなと思うので、子育てサロンに寄った帰りの人たちが借りていくといったようなことが増えれば、一人当たりの冊数が増えるのではないかなと思っております。

事務局： 静岡県図書館を見ていきますと、かなりの施設が複合館になっています。多いのは生涯学習センター、あとは保健センターや子どもの関係との合築が多いと思います。沼津は図書館を中心にするということで単独館となっておりますが、立地が良い場所にございます。立地が良い分駐車場が少ないというのがある意味この個性になりますので、プラスにできるよう頑張っていきたいと思います。

(2) 図書館利用者アンケート結果について

事務局から配付資料に基づき説明

委員： 二つのアンケートですが、調査対象者が既に足をここに運んでこられる方、電子図書館のアンケートの方では既に利用されている方、ということで今後図書館を活用していってもらうにはここを利用してない人をターゲット層にしてアンケートを取らないとどうなのかな、ということと、有効回答数、標本数が、電子図書館の方が90件というのは沼津市民全体のアンケート結果として資料になりえるのかどうか、と思います。

図書館を利用している方のアンケートは、50歳以上で71.5%、そうすると子育てのサービスのところは、そこはクロス集計を考えればイベントに飢えている人がいるという実際のところとずれているので、複合施設やカフェが欲しいとか、ハード的なものはとても無理なので、まちづくりの中でここでのアクセスを一緒にしながら、魅力があるまちづくりとタイアップしながら図書館も子育て世代、子どもたち、お年寄りまでが使いやすいようなサービス向上になっていけばいいなと思います。

事務局： アンケートの目的ですが、定点観測として、今利用している人にアンケートを取るということで始めたものでございます。利用者アンケートは来館者に直接紙をお渡ししてご記入いただきましたので、ある程度回答をいただきましたが、電子図書館の方は電子図書館のトップページに「アンケートやっておりますのでご回答ください」と掲載する形で行ったため直接の働きかけができず数が伸びませんでした。やり方については、期間を恒常的に取るしかないと考えております。

市役所全体でやるアンケートがありますので、また機会がございましたら、図書館についてのご意見を伺うということもやっていきたいと考えております。

委員： 2ページの利用方法、年齢、それから10ページを比べてみて、アンケートの取り方の問題もあると思いますが、電子以外の結果でいうと50代以上が圧倒的な数字、40代も入れると8割くらいで、30代、20代、10代がほとんどいないが、逆に電子の方は70代以上が1.1%、圧倒的に若い人が多いことについて原因と、今後どうしていくのかについて対応を教えてくださいたいと思います。

職業は学生には高校生にも含むのかどうか。高校生も含んでるとすると非常に少ないのではないか。

来館者の徒歩というのは、自分の家から歩いてくるのか、あるいは駅までは電車やバスで来て、そこから歩いてくる人も含めているのか。

事務局： 施設の利用者は圧倒的に年代が高い方が多く、若い方にご利用いただくということが課題となっております。イベントでのご指摘もございましたが、伸ばしたいそこに力を入れております。学生については学習室で勉強だけして帰るといった傾向がございますので、本に目を向けてもらうような取組、掲示等の工夫をしていきたいと考えております。

電子図書館に若い人が多いのは、学校との連携が功を奏しまして、電子図書館を開始した当時は60代以上の方も多かったのですが、数年を経て学校との連携もあり若い方の利用が増えております。ご年配の方へは出前講座等を行うなど細かい丁寧なターゲット別のアプローチが必要であると考えております。

来館方法については、電車やバスと徒歩の人の場合は交通機関に○をつけていただいております。

委員： 定点観察というのは、今ここに人たちがどのような人たちで構成されているのかを観察するという意味で、非常に有効な方法だと思います。ただそれが、図書館がどうあるべきかというアンケートと内容が混同してしまう可能性があるということですね。

アンケート結果をどのように反映させていくかということについて、一つ一つを分析するという事は非常に時間がかかりますが、やっていかなければいけないと思います。

駐車場の減免時間が30分ということが適切かどうかなど具体的な提言もアンケートで出ていますが、図書館でどう対応していくかが一番のポイントではないかと思いました。

それから、トイレを洋式にしてほしいという要望については、ぜひ真摯に取り組んでいきたいと思います。

(3) 令和5年度事業計画について

事務局から配付資料に基づき説明

委員： 4ページの沼津の学校と教科書のあゆみ、継続的に開催されるということですが、既に廃校になっている学校についても今後展示をするという話でございますけれども、図書館だけで埋もれさせるのは非常にもったいないことですので、ぜひとも広報ぬまづや市内の各種メディアを通じてPRをお願いしたい。

産業的なことが少ないと先ほどお話いたしました、沼津では職業に対する教育というのが、世の中にはこんな職業があるんだよという紹介が限られております。これは小学校中学校高校を通じてそんな気がします。一部の高校では積極的な職業紹介をやっていると思いますが、世の中にどんな職業があるのかというのは恐らく教育の制度の中では、市役所に努めている人がいます、スーパーがあります、漁業をやっている人、農業をやっている人がいます、で終わってしまっているような気がします。それが沼津の職業選択の幅を狭めているような、職業教育に対する不満感を非常に感じております。ですから、もう少し上手く説明できるようなイベントを、例えばですけど中学生向け、高校生向けにやっていただければ、一助になるのかなという気がしますので、一度ご検討いただけたらと思います。

事務局： 図書館が主催ではございませんが、各学校から職業紹介の講師をやってほしいというお話は来ております。30分とか40分とかで時間を切って、子どもたちが好きな職業の話の聞くというような取り組みは各学校でなされております。学校の中の教育活動ですので、一般の方への広報はございませんが、お声がかかれば対応していきたいと思っております。

委員： 学校の中では様々な職種に触れるようにキャリアパスポートということでファイリングしながら自分の夢に向かってどういった職業があるのかなど、学びながら積み重ねているところでございます。既になくなった学校や、今後今ない仕事は何割かになっていくということがございます。予測不能な時代を生き抜くために図書館や様々な知識、産業や社会と触れ合いながら子どもたちを育てていきたいと考えております。未来を考えるには過去を見ていかなければならないということもありますので、図書館の膨大な資料と関係づけながら、より子どもたちが自分の将来に向けて一助になるようなこともやっていただければありがたいと考えております。学校と図書館と協同しながらやっていきたいと考えております。

委員： 先ほど図書のリサイクルという話もございましたが、SDGsと関連付けてもう少し膨らませていただけると今風な話になると思います。ただ単に図書のリサイクルをしますよ、ではなく今社会で言われているSDGsなんですよ、みたいな形でもう少し消化させていただければいいかなという感じがいたします。

事務局： なぜリサイクル本を図書館で扱っているかという根本としてSDGsが必要ということのご指摘かなと考えておりますので、これから広報を通じて目的というところを加味していければいいかなと思っております。

(4) その他

・令和4年度第2回協議会時、委員からご提案のあった件について

令和5年度の自主事業計画案として、100周年記念事業についてご説明をしたところ、「現在、沼津市では沼津駅から中央公園、新総合体育館まで回遊性を高める試みを行っているが、図書館もその試みをしたらどうか」という提案をいただきました。

まず、本館は、駅南の中心市街地に隣接していることから、図書資料の充実とともに、おはなし会、魅力ある講座、イベント等を効果的に実施することで、回遊性の一助になるのではないかと考えております。

一例としましては、今年度は、市制100周年、図書館開館30周年企画として、先に令和5年度の事業でも説明いたしましたが、ゴールデンウィークに合わせ4月27日から29日の3日間、大規模なリサイクルフェアを開催したところ、いつも図書館を利用される方だけでなく、様々な層の方々にご来館いただきました。

また、令和4年度には、まちなかの公共空間を活用する社会実験、オープンヌマズに参加しました。仲見世商店街でリサイクル本の提供や、絵本の読み聞かせを行うとともに、期間内に中央公園で開催されたマーケットに、自動車文庫を臨時出張しました。

このオープンヌマズは、今年度も広範囲の回遊を生み出すことを目的に、7月から12月の長期間開催されており、11月の「ブック」をテーマにした期間には、図書館も参加を予定しています。

このようなまちなかでのイベント時においては、図書館も様々な形で積極的に参加することで、回遊性の向上とともに、図書館への立ち寄りの拡大に役立つものと考えております。

・「令和5年度静岡県図書館大会」への参加について

配付資料に基づき説明

・エレベーター更新工事について

市民の方が利用される2基のエレベーターを1基ずつ工事するため、1基のみの利用となる期間が、9月26日から11月12日までの48日間の予定となることを報告

委員： これは長期に渡る話になると思いますので、今すぐどうのこうのということではなく、ご検討いただきたいと思います。

先ほどから出ております、駐車場の件と絡んで、いろんな方に来ていただくには、自動車に来ていただく方のアプローチをもう少し考えたいなという気がします。そのためには駐車場の料金も去ることながら、駐車場の数そのものを増やす方策ができないか。例えば近隣の駐車場と契約した形でそこに止めさせていただくとか、そういった形がもしできれば駐車料金と相まって、より利用しやすい環境が整うなという感じがいたします。

それから、図書館のすぐ前に横断歩道がないのかなという感じがいつもしております。

国道でもございますし交通量の多い場所でもありますから一朝一夕にはできない話だと思えますが、横断歩道のあり方がもう少し上手くできないか、極端なことを言えば、三枚橋町の交差点から三園橋の交差点までの間を全部横断歩道にしてもいいんじゃないかなと考えますが、これはあんまり得策ではないということで、例えば三枚橋町の交差点の横断歩道の幅をもう少し広げて、10m程の長さにして図書館まで来やすくするというようなことが考えられると来館しやすいのかなと思います。電車で来て歩いてくる人たちも容易になるし、回遊性を考えても人に優しい歩きやすい環境を作る一助になるような気がいたします。

図書館の前にハンバーガーなどを売っているような移動商店なども日曜日だけでも来ていただいてやってもらおうと、それだけでも賑わいの元になるのではないかと思います。ご検討いただければと思います。

委員： いずれも図書館だけで判断できる問題ではないと思います。

事務局： 駐車場の料金に関しましては平成、令和の前から何とかならないかということで財政当局にアプローチしているところですので、引き続き頑張っってやっていき、少しでも皆さんの利便性が高まるようにしていきたいと思います。

近隣の駐車場との連携ですが、現在、さんさんパーキングと連携しておりまして、この駐車場がいっぱいの時にはご利用いただける方式をとっております。

横断歩道についてですが、今ある横断歩道から何十メートルという数字がございまして、離れないと次の横断歩道ができないという運用だと聞いておりますので、委員がおっしゃいましたように長期的視点でアプローチしていきたいと思います。

委員： 旧国道1号線の大手町と上本通りの間の仲見世道路の横断歩道を設置するときに同じような話が出たと聞いております。決して無理な話ではないと思います、やり方だと思います。

委員： 30年くらい前になりますが、私の知人がここから帰るときにこの横断歩道でないところを渡ってしまい、自動車に跳ねられまして、それからずっと足をひきずっております。渡った方が悪いのですが、もう少し信号の時間が短ければそこを渡らなかつたんだろうなということもありますし、市民からそういう要望もあることで、そういった検討もしていただけたらと思います。

6 閉会